

「砂の島」砂嘴とつながる

石狩川河口

【石狩】石狩川河口の砂嘴の地形変化を観測している市内花川北の石川治さん(71)が、砂嘴の先端から約100メートル離れた地点に砂の島が発生し、その後徐々に近づいて砂嘴の先端とつながる様子を確認した。「6

年間観測しているが初めて見た現象」と驚き、「こうした不思議な地形変化を観光資源として役立てたい」と意気込んでいる。

(上野香織)

市内の石川さん地形変化確認

観光資源化に期待



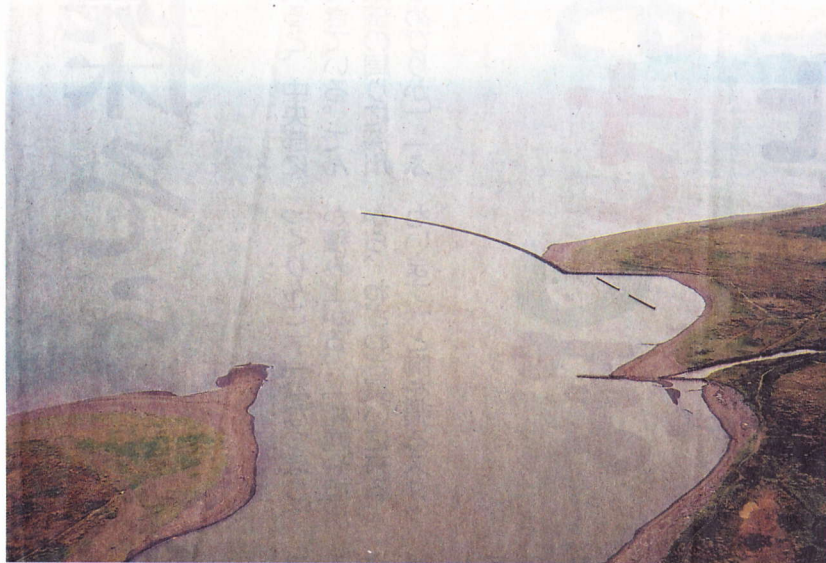
石川治さん

石川さんは東京出身。札幌市内の大学で教員をしていた。退職後の2008年

から、歩いたルートが記録される衛星利用測位システム(GPS)の装置を付けて石狩浜の海岸線を歩き、砂嘴の地形変化を記録している。雪解け水が減って石狩川の勢いが弱まり、波も穏やかになる6月ごろは河口に砂がたまりやすくなり、決まって砂嘴の先端が100メートル以上伸びるなど、



衛星写真閲覧サービス「グーグルアース」に記録した位置情報を重ね、石川さんが作成した地形変化の地図(グーグルアースの画像は2012年5月撮影)



石川さんが遊覧ヘリから撮影した石狩川河口の砂嘴(左側の陸地)。先端が突き出ている部分が、つながった砂の島=9月27日

じ現象はあったが、約100メートル離れた場所からつながるのを見たのは初めてだという。10月2日の観測時も、砂嘴の先端部分が約50メートル突き出し、島の名残が見られたという。

生じた島が海側に流されなかったのではないかと分析する。「いしかりガイドボランティアの会」のメンバーでもある石川さんは「こうした不思議な地形変化は観光資源になるのでは。多くの人に知ってもらいたい」と話し、要望があれば案内するとのこと。

石狩観光協会も「長く住んでいると気付かない魅力を掘り起こしてくれた。観光資源として育てていきたい」と話す。砂嘴の先端は足場が悪い場所もあり、むやみに歩くのは危険という。ガイドの希望は同観光協会 ☎62・4611へ。



河口砂嘴 河口部

で川と海に挟まれる形で砂礫(されき)が堆積した細長いくちばし(嘴)状の地形。石狩川の河口砂嘴は、長さ約4キロ、幅は広いところ約600メートル。観光施設が集まる石狩市本町地区の大半は河口砂嘴上にある。